

専門用語と異なる「専門的意味の日常用語」

—介護福祉士や看護師を目指す外国人学習者の観点から考える語彙分析—

磯野 英治 (名古屋商科大学)

ダニエル ロング (首都大学東京)

1. はじめに

日本で介護福祉士や看護師を目指す外国人にとって言語的「壁」が多数ある。漢字や専門用語の問題を取り上げた研究(遠藤・三枝 2015)があるが、本発表で取り上げるのは、日常用語にみられる専門的意味で、ロング・磯野(2014a,b)で関連の用語を次のように定義している。「専門用語」は「語形が日常的でないもので、意味・概念も日常的でないもの」(「関節可動域制限」、「消炎鎮痛剤」など)、「非日常用語」は「語形が日常的でないものだが、意味は日常的なもの」(寝間着を意味する「寝衣」として捉えている)。そして、本発表で取り上げるのは「専門的意味の日常用語」であり、「語形が日常的であるが、意味は日常的でないもの」と定義する。例えば「運動」は日常用語では「健康を保つように身体を動かすこと」や「スポーツ」という意味で用いられるが、介護という専門分野では「食べ物を食べ、食道へ送り込むという複雑な運動」のように使われる。このほかに「移動」(寝返る、起き上がる、立ちあがる、歩く、座るなどの動作を表す)、「おいしい」(味がうまいという意味ではなく、「おいしく食べる」のように「快適に」という意)、「起き上がり」(「立つ」ではなく、「人の手を借りながらベッドから身体を起こす)、「外界」(室外のこと)、「起床」(就寝の反対ではなく、寝たきりの反対語)、強度(「強さ」ではなく、「安全な運動強度」のよう「程度」の意味)などがみられる。

本発表では以上の研究成果を踏まえ、介護福祉士国家試験対策の書籍(廣池 2016)から抽出した113語の中から単語を抽出し調査票を作成し、日常用語として使われている意味と専門分野で使っている意味や使い方の精査を行うとともに、介護分野に詳しくない日本語母語話者および日本語学習者を対象に、「文脈の中で・文脈なしで」の二つの場合において専門的な意味が推測できるかどうかを測った。また、書籍ではその索引において、専門用語の掲載が中心なため、介護分野におけるこうした「専門的意味の日常用語」の単語集の必要性を指摘し、かつ作成に向けた提案を行なう。

2. 調査概要

既述のように、本発表では「専門的意味の日常用語」に関連する用語を調査対象とするが、以下にその分類を簡単にまとめておく(ロング・磯野 a,b)。

- (1)「意味順序交替的日常用語」。マイナーな意味合いのメジャー化であり、問題は語形ではなく意味合い。そしてその意味がけっして独特ではなく、普通の辞書にも載っているが、順序が低い。例:「相手」は一般的には「仲間や競争者」だが、介護分野では「対象(介護

を受ける者)」の意

- (2)「専門的意味の日常用語」。非日常的意味合いで使われる日常用語。日常的な言い方だが、この分野における意味が違う。

例：「強度」を「運動強度」のように「程度」の意味で使用

- (3)「非日常用語」。専門用語ではないが、非日常的言い方。問題は意味合いではなく語形。意味は割合簡単に日常用語に置きかえられる。

例：寝衣→寝間着

- (4)「準専門用語」。介護用語のように概念が専門的ではないが、日常的にあえて区別しない概念。例：半座位、端座位。褥瘡(じょくそう)好発部位＝「床ずれしやすい体の場所」のように簡単に日常的な言い方に置き換えることが可能

- (5)「専門用語」。完全に介護・医療分野だけでしか通じない語。簡単に日常用語に置き換えることが難しいので、語形が専門的だけでなく意味も専門的な用語。

例：「半側空間無視」や「腸管出血性大腸菌」

本発表では、とりわけ日常用語に関連してその「意味」が問題となる上記の(1)から(3)の用語を取り上げて、日本語母語話者と日本語学習者に「文脈なし/あり」で日常用語の専門的意味が理解できるかを、質問紙調査を通じて分析を行った^{注1}。具体的には、(1)から(3)に該当する単語をそれぞれ3つずつ、計9つの用語^{注2}を「文脈なし/あり」で、その単語の意味が分かるかどうかを記述してもらう方法である。下記の例1,2を参考のように、「文脈なし」の場合はその単語の意味と例文(用法)を書いてもらい、「文脈あり」の場合は専門的意味の日常用語で使用されている例文を提示し、その単語の意味を推測してもらう、といった手順で同じ用語を「文脈なし/あり」で取り上げている。同じ用語を「文脈なし/あり」で取り上げたのは、違う用語を取り上げて「既知・未知」「理解語彙・使用語彙」などに個人差ができるだけ出ないようにするためである^{注3}。「文脈なし/あり」ともに正答とするのは「専門的意味」であり、これによって、意味のずれを明らかにする目的がある。

例1：文脈なしの調査例

以下の単語に関して、その意味と使用する際の例文を書いてください。

| 単語 | 意味 | 例文 |
|-----|----|----|
| ①障害 | | |

例2：文脈ありの調査例

以下の例文から推測(類推)できる下線部の単語の意味を書いてください。

| 例文 | 単語の意味 |
|---|-------|
| ⑤ベッドは自分で <u>起床</u> できる場合には低めに、寝たきりの場合は～ | |

3. 調査結果と考察

以下でアンケート調査の結果を文脈なしの場合と文脈ありの場合に分けて、そして日本語母語話者と日本語学習者の結果に分けて分析する。項目①～③は「味順序交代的日常用語」、④～⑥は「専門的意味の日常用語」、⑦～⑨は「非日常用語」に当たる。

「文脈なし」では全ての項目において、理解するには問題があったことが分かった。「味順序交代的日常用語」の項目をみよう。介護用語として使われている「着用」は「衣服を着る」という意味だが、6割以上は「シートベルト、ヘルメット、ライフジャケットなどのようなもの身につける」という意味で理解している。理解度が最も低いのは「味順序交代的日常用語」の項目であった。介護用語では「起床」が「ベッドで寝た状態から体を起こして座る」という意味で使われているが、母語話者の100%が「6時起床」のように眠りから目覚める意味で捉えている。「非日常用語」の「移乗」や「寝衣」は理解できた者もいるが、そのほとんどは漢字だけで意味を推測したのであって聞いたことがないと、自由回答欄で書いている。一方、文脈の中で使われていると日本語母語話者の理解がかなり上がるが、日本語学習者は文脈がある場合でも理解度が100%に達していない。

表1: 「文脈なし/あり」による理解度の差異

| 項目 | 母語話者人数 (N=19) | 母語話者% | 日本語学習者 人数(N=12) | 日本語学習者% |
|--------------|------------------|-------|--------------------|---------|
| ①障害 (文脈なし) | 3 | 16 | 4 | 33 |
| ②着用 (文脈なし) | 7 | 37 | 6 | 50 |
| ③入所 (文脈なし) | 11 | 58 | 1 | 8 |
| ④移動 (文脈なし) | 0 | 0 | 4 | 33 |
| ⑤起床 (文脈なし) | 0 | 0 | 1 | 8 |
| ⑥自立 (文脈なし) | 0 | 0 | 4 | 33 |
| ⑦移乗 (文脈なし) | 0 | 0 | 1 | 8 |
| ⑧在宅生活 (文脈なし) | 13 | 68 | 2 | 17 |
| ⑨寝衣 (文脈なし) | 5 | 26 | 7 | 58 |
| ①障害 (文脈あり) | 9 | 47 | 5 | 42 |
| ②着用 (文脈あり) | 19 | 100 | 10 | 83 |
| ③入所 (文脈あり) | 19 | 100 | 3 | 25 |
| ④移動 (文脈あり) | 16 | 84 | 7 | 58 |
| ⑤起床 (文脈あり) | 14 | 74 | 2 | 17 |
| ⑥自立 (文脈あり) | 12 | 63 | 9 | 75 |
| ⑦移乗 (文脈あり) | 17 | 89 | 10 | 83 |
| ⑧在宅生活 (文脈あり) | 16 | 84 | 3 | 25 |
| ⑨寝衣 (文脈あり) | 17 | 89 | 8 | 67 |

加えて、漢字圏の日本語学習者（中国・台湾）を中心に、漢字に内包されている意味から推測して「着用」を日常では使用しない一般的意味で「着る」と回答したり（「着用」はシートベルトなどに使用）、非日常用語であり日本語教育では扱わない「寝衣」を「パジャマ」と回答して

みせたり、といった事例があった。一方でメキシコなど非漢字圏の学習者には、非日常用語を中心に回答そのものが難しいことが分かった。

4. おわりに

本発表では、介護福祉士国家試験対策の書籍から抽出した用語について、日本語母語話者と日本語学習者を対象に専門的意味の日常用語の意味が分かるか（あるいは推測できるか）に関する調査結果を報告した。本調査からは、例えば日本語学習者が介護や看護関連の用語を学ぶに際し、分からない単語をこれらの専門ではない日本語母語話者に尋ねても、その意味にずれが生じてしまうというようなことが起こり得ることを指摘できたと考える。書籍ではその索引において、専門用語の掲載が中心なため、介護分野におけるこうした「専門的意味の日常用語」の単語集が別途必要になることは、本研究から明らかであり、その作成が急務だと言える。今後は、単語リストの作成に向けた単語のリストアップと解説作りを進めていきたい。

注1：調査対象者は、発表者が所属する大学の学部生、および大学院生である。日本語母語話者19人、日本語学習者12人に対して、質問紙調査を行った。

注2：それぞれ(1)は「障害・着用・入所」、(2)は「移動・起床・自立」、(3)は「移乗・在宅生活・寝衣」である。

注3：その他、本調査では最終ページに自由記述欄を設け「単語の読み方がわからなかった」や「普段使ったことがないので、その意味や使い方がそもそもわからなかった」などを記述してもらい、調査のフォローアップも兼ねた。また調査を行うに際して、同意書を併せたフェイスシートを作成し、年齢や母語等についてもデータを収集している。

【参考文献】

遠藤織枝・三枝令子（2015）『やさしい言いかえの介護のことば』三省堂

廣池利邦（2016）『スラスラ覚える介護福祉士合格ゼミ』新星出版社

ロング ダニエル・磯野英治(2014a)「非専門用語の『専門分野における意味合い』—介護福祉士を目指す外国人のためのインドネシア語・英語・やさしい日本語の訳—」、2014年日本語教育国際研究大会発表資料。

ロング ダニエル・磯野英治（2014b）「非母語話者の介護福祉士のための外国語訳をめぐる意味論的問題—非専門用語の『専門分野における意味合い』—」、『日語日文学研究』第91集 pp.23-41.